

平成 23 年 7 月 6 日

ストレス対処リーフレットの配布と児童・園児を対象とした ストレスアセスメントの実施について

福島大学 子どもの心のストレスアセスメントチーム（代表 筒井雄二）による児童・園児のストレスに関わる以下の活動を紹介する。

- 1．ストレス対処のためのリーフレットの配布について
- 2．ストレスアセスメントの実施について

.....

1．ストレス対処のためのリーフレットの配布について

震災による被災者の心のケアが急務とされている。ケア技法の中心は、被災者のつらい経験を言葉で表現させること。だが、言語の発達途上にある児童（低学年）や幼児は、上手に言葉で自分の気持ちを表現できない。そのため、(1)子どもたちはストレスをうまく解消できず、(2)周囲の大人は子どもたちのストレスに気づきにくい。

そこで、子どもにおけるストレスの見極めポイントと対処のポイントをリーフレットにまとめ、児童・園児のいらっしゃる保護者の皆さまに読んでいただくと考えている。

現在、大学 HP からダウンロード可

(<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/topics/h23/110620-stress.html>)。

下記、アセスメント実施校・園には配布中。

.....

2．ストレスアセスメントの実施について

原発問題を抱える福島の影響状況は、宮城や岩手の被災地とは大きく異なる。このことは、被災者の心の問題を考える場合でも同様だ。宮城や岩手における心の問題の中心は地震や津波による“トラウマ”（阪神淡路大震災でも大きな問題となった）とするならば、福島ではそれに加えて原発により派生するストレスという別の問題も生じている。このことは、(1)福島では、宮城・岩手とは異

なる心のケアが必要とされる可能性を示す。また、(2)ストレスは主観的に”計測”計測・報告されることが多く、科学的な現状把握が不十分な状況にある。私たちは心理学のストレス尺度等を使い、(1)福島でどのようなタイプのストレスが問題となっているか、(2)何が原因でストレスが引き起こされているか、(3)ストレスの問題がどこまで深刻なのかを測定し、子どもたちのストレスの現状を科学的に分析したい。そして、その結果をもとに福島の現状を社会に訴え、福島の子どもたちの精神的健康の回復に寄与したいと考えている。

- 調査概要)
- ・福島市を中心に実施中(6月中旬から7月下旬)
 - ・子どもたちの日常の行動からストレスを評定
母親による評定、質問紙形式
 - ・ストレス行動を尋ねる項目、睡眠行動を尋ねる項目、
保護者の方の原発問題への関心や不安の高さを尋ねる項目
などから構成

福島大学 東日本大震災総合支援プロジェクト 採択課題
「多重災害ストレスが児童期および幼児期の精神的健康に及ぼす影響」

(お問い合わせ先)
共生システム理工学類 筒井
電話：024-548-8163
email: tsutsui@sss.fukushima-u.ac.jp